



2012年6月4日(月) 開催

テーマ:「Daron Acemoglu and James Robinson(2012): *Why Nations Fail* を読む」

報告者: 小堀 深三(研究顧問)

概要

この本の首題は、米国、英国、ドイツに代表される豊かな国と、サハラ以南アフリカ、中南米、南アジア等の貧しい国との間に現存している所得や生活水準の途方もない大きな格差の根源の追求である。

本書は John Bates Clark Medal 受賞(2005年)の経済学者 Daron Acemoglu 教授(MIT)と政治学者(特に中南米、アフリカ地域) James Robinson 教授(Harvard)が長年の共同研究の成果を興味津津の筆致で一般読者向けにまとめたもの。1972年のノーベル経済学賞受賞者である Kenneth J. Arrow 教授は、“両教授は一見似たように見える国の間にある経済的・政治的発展の大きな違いは、制度の発展の違いによるものであることを、広範かつ多面的な歴史的検証により立証した。一国の経済的発展にとって、オープンな社会制度、創造的破壊の積極的受け入れ、および整備された法制度が決定的な役割を果たすと言うことだ。”と述べている。

米・メキシコ国境の町: ノガーレス(米)とノガーレス(メキシコ)対比

冒頭の章で、米国とメキシコの国境の同じ名称の町、米アリゾナ州ノガーレスとメキシコのソナラ州ノガーレスが地理的、文化的、気候上同じあるにも拘らず、メキシコのノガーレスの世帯所得はアリゾナのノガーレスの3分の1であり、高校就学率や幼児死亡率でも大きな違いがあることを紹介している。その原因は米国とメキシコの制度の違いである。アリゾナ州ノガーレスの住民は長年にわたり米国の経済制度と民主主義の政治制度のメリットを享受し繁栄してきたのに対し、ソナラ州ノガーレスの住民は、1929年以降、制度的革命党(PRI)政権が続き、漸く2000年7月の大統領選挙の結果、71年ぶりに制度的革命党政権の権威主義的・腐敗政治から解放された。

経済成長の仮説について

人文地理学仮説: 古くは熱帯地域の住民は怠惰で知識欲に欠けるとする Montesquieu の気候要因仮説がある。Jeffrey Sachs 教授の熱帯病要因仮説や進化生物学者 Jarred Diamond 教授の家畜化に適した野生動物(豚、牛)や食用栽培に適した植物の存在と経済発展の関係仮説も紹介されている。(Jarred Diamond. "What Makes Countries Rich or Poor?" (2012年6月7日)の書評も参考になる。)

文化仮説: 特に宗教仮説では、Max Weber のプロテスタントの倫理に触れ、プロテスタンティズムと経済的成功は殆ど無関係と述べている。もともと Max Weber 自身も宗教改革ないし禁欲的プロテスタンティズムが資本主義文化をつくり出した、などといったことは絶対になかった。(大塚久雄の訳者解説)

支配者の無知仮説: 支配者の無知が、貧しい国を一層貧しくするという仮説。しかしコンゴ民主共和国の事例などをこの仮説では説明できない。1960 年独立以降、経済が衰退している原因は Mobutu 大統領の32年の在任期間中の徹底した収奪的独裁政治制度にあり、現在の Kabila 大統領政権もそのまま踏襲し、未だにコンゴ民主共和国は悪い経済制度と政治制度の悪循環にはまり込んでいる。

良い制度と悪い制度

経済成長を促進する良い経済制度とは、国民が物的・人的資本・技術開発に進んで投資する強い意欲を持てる制度であり、本書では“Inclusive economic institutions”(包括的経済制度)とよんでいる。また持続的経済成長にはイノベーションが必要であり、イノベーションは創造的破壊を避けて通れない。

多数を犠牲にして支配者の繁栄を可能にする悪い制度は”Extractive economic institutions”(収奪的経済制度)と呼ばれる。

包括的政治制度とは国民が政治家をコントロールでき、政治家の行動に影響力を持つ政治制度。政治権力を制約する仕組みのある制度。この場合社会を統治する中央集権的権力と能力を国家が保有する。収奪的政治制度は独裁的権力が行使され、経済成長を損なう政治制度。(この制度論について Francis Fukuyama の批判的書評(2012年3月26日)と著者の反論も参考になる。)

中国の将来

権威主義的、収奪的政治制度下にある中国の経済成長は暫く続くとしても、**本格的な包括的経済制度と創造的破壊**に支えられた持続的成長には移行しない。近代化仮説にもかかわらず、権威主義的成長が民主主義や**包括的政治制度**に移行することは期待できない。

中国等の権威主義的体制の現在の成長は、包括的経済制度に転換する前に収奪的成長の限界に達すると思われる。

権威主義的経済成長モデルは、中南米、アジア、サハラ以南アフリカ諸国の理想的経済モデルとはならないし、なるべきではない。

以上